



第384号 平成22年7月1日  
 発行所 京都市学校医会  
 京都市中京区間之町通竹屋町下ル  
 楠町601-1 こどもみらい館 2階  
 T E L (075) 256-0351  
 F A X (075) 241-3568  
 発行人 奥村正治

## 平成21年度Ⅲ期MRワクチン集団接種について

副会長 林 鐘 声

京都市保健福祉局保健医療課より京都市の平成21年度麻疹予防接種結果の発表がありました(表1)。麻疹ワクチン単独接種者をごく僅かに含んでいるだけで、実際は麻疹風疹(MR)ワクチン接種率と読み換えてよいデータです。なかでも、個別接種に加えて集団接種を取り入れたⅢ期は目覚しく接種率が向上しており、皆様に御協力を頂いたこの集団接種の結果について、京都市から出ている報告の一部を改変して報告します。

集団接種よりも個別接種で臨むべきと考えた総合支援学校と不登校生のための中学校を除外した京都市立中学73校が対象となりました。在籍生徒数は10,560人、各生徒に対する予診票は各中学単位で配布し、養護教諭が中心となり保護者、生徒とやりとりして予診票の記載不備のチェック、その回収を図りましたが、193人は回収できませんでした。集団接種を希望した8,353人のうち、接種時の問診、診察で不可と判定された429人を除いた7,924人が各学校で集団接種を受けました(表2)。集団接種を希望しなかった2,014人の内訳は、予診票回収時に既に個別接種を済ませていた1,288人、個別接種をうける予定の514人、既に麻疹風疹の両者に罹患した85人—驚くほど大きい数字—、麻疹の既往8人、アレルギーや接種への不安、病気のために医師からストップがかかっているなどのその他の理由の119人でした。

表3に示すようにⅢ期麻疹ワクチン接種者は11,932人(97.5%)、その割合は集団接種者が2/3、

個別接種者が1/3でした。

麻疹ワクチン未接種者は301人、適応がありながらうけなかったのは201人(表4)、この201人の詳

表1 H21年度京都市麻疹ワクチン接種率

期	対象者数	接種率	(平成20年度接種率)
I	11,272人	97.2%	(96.2%)
II	11,282人	93.9%	(90.2%)
III	12,233人	97.5%	(86.1%)
IV	11,558人	76.2%	(76.9%)

表2 Ⅲ期MRワクチン集団接種(市立中学73校)

対象	10,560人
予診票回収	10,367人
接種希望者	8,353人(非希望者 2,014人)
接種実施数	7,924人(接種不可者 429人)

表3 Ⅲ期麻疹ワクチン接種者数(11,932人)

集団接種	7,924人(66.4%)
個別接種	4,008人(33.6%)

表4 麻疹ワクチン未接種者数(301人)

接種適応外	100人
(既罹患者)	(93人)
(平成21年度以前に接種)	(7人)
接種適応	201人

細は明らかではないが、予診票未回収の193人、その他の理由で接種を希望しなかった119人から出ているのではないかと推測している。とりわけ、コンタクトが十分に取れず不登校の生徒の占める割合が大きいのではないのでしょうか。

個別接種のみで対応したⅣ期は平成20年度と接種率に変化はなかった。Ⅲ期が個別接種のみで接種率に変化がなかったとすると、接種者数は10,533人と計算される。実際の接種者数から差し引きすると、集団接種を併用することで1,400人が新に接種をうけたことになる。平成20年度の2月末での学校毎の接種率を調べた時、驚くほど接種率の低い学校が散見され、教育環境、家庭環境などから接種勧奨を十分に促せにくい生徒のいる学校があることは明らかでした。集団接種の併用は、これらの生徒に接種をうけやすくする環境を与えたということで意義は大きい。

集団接種のために京都市学校医会の会員の60%にあたる168人が出務し、5校に出務した校医も数人いましたが、必要出務医師数319人を充足することが出来ず、地区医師会の19人の先生方にも複数回出務して頂きました。ご協力頂いた先生方には、この場を借りてお礼申し上げます。

集団接種のマニュアルは厳格に守られていて、ワクチン管理を含めて現場からは支障となる問題点は挙がっていないようです。集団接種に伴う副反応は45人(0.6%)、蕁麻疹、気分不良、頭痛、局所の痛みなどで、校医、学校関係者、市職員が現場で対応しました。ADEM、ギランバレー症候群の発生報告は出ていません。

予診票での麻疹ワクチン、風疹ワクチンの接種歴では、各々、84.6%、71.6%であり、その数値の低さゆえに京都市に問い合わせたところ、平成11年度以降のデータでは、両者とも常に90%を超えて接種していました。この数値の乖離には頼りとなる母子手帳の紛失が大きく関与しているものと考えられます。今回の集団接種の記録を母子手帳に残すように計画してきましたが、各家庭でその手帳の管理に問題があるようです。

最後に、集団接種時期について一言述べておきます。原則7月までに実施するとして始まったことから9月以降に実施したのは4校、4月～6月の実施が集中しており、今年度も同様です。この時期は内科検診、心臓検診、結核検診、検尿検診があり、養護教諭の仕事量は大きいものがあります。一方、学校医も忙しく、出務医師が限定されている一因ともなっています。また、京都市にとっても特定検診の時期でもあります。集団接種は先に述べたように個別接種をうけにくい生徒に接種機会を与えるという役割をもち、京都市、学校医、学校関係者の緊密な協力のもとで行うものとするれば、例えば9月以降に接種実施時期を考えてもよいかと考えますが、どうでしょうか。関係する三者がワクチン接種の勧奨をするとともに、三者が協調して行う集団接種は、このワクチン接種が重要であることの何よりの強いメッセージを生徒、保護者に伝えていきます。あと3年継続していくべき事業であり、より円滑に無理なく実効を挙げていくためにも、関係団体との協議はかせません。



副会長 林 鐘 声

5月16日、大阪国際会議場で上記協議会が4分科会に分れて開催されました。昨年に引き続き紙上提言はなく、各分科会は口頭提言のみの5題でした。第1分科会について報告します。

協 議 題	「生涯を通じて心身の健康を保持増進するための、健康教育の推進」	
主 旨	子どもたちが心身の健康課題を解決するために、自らの健康を保持増進できるようにする健康教育について協議する。	
協議の視点	○ 子どもの実態に応じた健康の保持増進のための保健指導のあり方 ○ 学校・家庭・地域の連携・協力による健康教育の実践	
口頭提言題 及び提言者	No.1 保健指導主任を中心とした感染症予防の取り組み	千葉市立稲浜小学校 教 諭 中川 好美
	No.2 子どもの心を育てる保健室経営 ～子どもの意識を高める保健指導～	静岡市立清水有度小学校 養護教諭 堀 直美
	No.3 心身ともに健康な児童の育成をめざして ～"からだ"を意識させる様々な取組を通して～	岡山市立福谷小学校 養護教諭 戸井 尚美
	No.4 自ら課題を解決し、すこやかに生きる子どもの育成 －子どもの実態に応じた支援の工夫を通して－	福岡市立草ヶ江小学校 教 諭 休徳 一郎
	No.5 健康診断結果を生かした学校歯科保健の活動	大阪市立東小路小学校 学校歯科医 林 昭典

No.1～No.4の提言者は教諭2人、養護教諭が2人でした。学校現場での健康教育の推進者が担任や養護教諭であることを示しているとともに、この両者の連携が重要であることが伝わる提言でした。連携の鍵を握る人の負担の大きいことも垣間見えたように思います。現場を知らない学校医にとっては、提言の内容を深く理解したり共感することは困難でしたが、ハンカチを持ってくる児童の比率が高学年になるとともに少なくなるため、これが手洗い・うがいの励行の障害となっているとの指摘、生徒が保健委員として活動することは生徒同士の知識の共有に大いに有効であったこと、健康カルテに児童自身が

月に2日記入していくことで自身の生活習慣の見直しのきっかけとなったことなどが、印象に残りました。聴いていて私が小学生の時に、ハンカチ、鼻紙の持ち物チェックを風紀委員の生徒がしていたことを思い出しました。

No.5は事後措置が重要となることが多い歯科検診のデーターをデジタル化して分析共有することは、学校保健の進展のために必要とする学校歯科医からの提言でした。児童・生徒のプライバシーの保護、データー入力の間違い防止、その手間、データー共有化のためのソフトの開発など、解決すべきことが目白押しでした。

私が小中学生の頃の歯科検診に比べて、今では事後措置の指導が行き渡りようになり齲歯などの歯科保健の状況は大きく変化しているようです。一方、早寝、早起き、朝ごはん、手洗い、うがいなどは私も指導を受けて育ってきました。今では口でいうよりも、やってみせる、結果の違いを視覚化してみせるなどより理解し易く工夫されていますが、果して

効果はそれに見合うものがでているのでしょうか。児童・生徒、保護者・教諭の置かれている状況は随分と異なってきているようです。私と同年代の教諭が自らの経験を踏まえて、健康教育のこれからを題して提言して頂くと、問題のありかが、より見えてくるように思いましたがどうでしょうか。

---

## 第61回指定都市学校保健協議会 第2分科会報告

会長 奥村正治

第2分科会も演題は5題でした。協議題「ヘルスプロモーションの理念を生かした、保健管理のあり方」主旨「子どもたちが自らの健康を向上させる事ができる保健管理のあり方について協議する」協議の視点「自己管理能力を高めるための保健管理のあり方」「自らの生活習慣を見直し改善していくことのできる保健管理の実践」の課題の中、

①神戸市学校歯科医会 加藤 稔先生

「平成16年神戸市学校管理下における歯の外傷の調査と研究」

—神戸市独自の取り組みから見る歯牙外傷—

②川崎市立西丸子小学校学校歯科医 佐藤哲郎先生

「生活習慣からみる子どものこころとからだの健康」—基本的な生活習慣の確立と自らの健康観を向上させる歯科保健活動—

③京都市立二条中学校学校薬剤師 大垣聡彦先生

京都市立京都堀川音楽高等学校学校薬剤師

田中秀明先生

「学校保健室寝具における効果的ダニアレルゲン除去指導について」

④堺市立城山台小学校学校養護教諭 今村かえで先生

「児童が主体的に健康管理できる力を育てるために」—児童保健委員会の活動を通して—

⑤名古屋市立鶴舞小学校学校歯科医 柳瀬章雅先生

「名古屋市歯科疾患特別健康診断におけるPMA指数の有用性」—歯科疾患（歯周疾患）特別健

康診断の効果的展開に向けて—

の5演題でした。歯科の先生の3題ある中、京都の先生が発表なされた話題を少し紹介します。

平成16年2月に学校環境衛生基準の改正により、ダニアレルゲンの測定項目が設けられた。その基準は「100匹以下/㎡または、それと同等のアレルゲン量以下」と定められた。校内ダニの集中するであろう学校保健室の寝具を中心に、天日干しや、電気掃除機による吸引除去や、市販のダニ除去グッズの使用、防ダニシーツの使用、業者による布団丸洗い等々を試みられた。いずれもダニアレルゲンの減少が認められたが、どの方法が最適であるという結果にはいたらず、こまめに（最低週一回以上）天日干しや、清掃を心がける必要があるとの結果であった。防ダニシーツで寝具をくるむと保健室で寝た児童にはダニアレルゲンは附着せず有効であるが、寝具にはアレルゲンは残るという結果である。又、業者の寝具丸洗いもダニアレルゲンは減少するが0にはならない様である。

保健室以外にも測定を行なわれた様で、ソファー、カーペット等が、不適な場所であり、保健室の寝具以外にも気をつけたい所である。意外なところでは、校長室、園長室が一番ダニの大元である事も判明した。校長先生そうじがんばって下さい。

## 第61回指定都市学校保健協議会 第3分科会【心の健康】に参加して

常任理事 杉本英造

協議題：心の健康づくりをめざすための、支援のあり方とその方策

様々な社会環境の変化により生じる心の健康課題に対して、学校・家庭・地域と連携した環境づくりや学校現場における具体的な支援につき協議されました。子供の心の健康問題解決のため、保健室が中心となり、スクールカウンセラー・保護者との連携、児童・生徒が訪ねやすい保健室の環境づくりはいかにすべきか？ 不登校の児童のために「子供サポー

ト委員会」を設置し、校長をはじめとする職員全体で、保健室にて補習授業を行っている事例も発表されました。また学校行事・安全指導を通して、児童の自主性を高め、自信をつけさせることが、心の健康に重要な役割を果たしていることも強調されました。この輪の中に学校医の存在は触れられず、少し残念でしたが、発達障害・摂食障害等、関与すべき問題は山積しており、現場の生の声を聞き大いに参考になりました。

## 第61回指定都市学校保健協議会 第4分科会【地域保健】

京都府耳鼻咽喉科専門医会理事 鈴木由一

平成22年5月16日（日）大阪国際会議場に於いて全体会議に引き続いて課題別協議会が「子どもの豊かな心と健やかな体を育み、たくましく生きる力を培うための学校保健活動の推進」を協議主題として

四つの分科会に分かれて行われた。

それらの分科会のうちの第4分科会、地域保健では以下のようなメンバーで発表、討論が行われた。

指導助言者	和歌山県立医科大学 副学長	宮下 和久
運営責任者	大阪市学校薬剤師会 学校薬剤師	西川 節子
司会者	大阪市立平野北中学校 校長	村上 吉範
協議題	「学校・家庭・地域の連携協力による、保健活動の推進」	
主旨	心身の健康課題に対応するための学校・家庭・地域の連携による組織的な地域保健活動の取り組みについて協議する。	
協議の視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ゲストティーチャーを活用した地域保健活動の推進</li> <li>○ 学校・家庭・地域の連携による地域保健活動の推進</li> </ul>	
口頭提言題 及び提言者	No.1 学校歯科保健の新たな展望 仙台市の「歯科保健統計」・「歯の衛生モデル校」の 取り組みから	仙台市学校保健会歯科部会 郷家 哲也・浅沼 勝 石川 潤一
	No.2 学校と家庭や地域・専門家と連携した歯と口の健康 づくり	新潟市立大淵小学校 養護教諭 佐久間朋子
	No.3 手指衛生の重要性 －横浜市立桂小学校の事例－	横浜市立桂小学校 学校薬剤師 中村 菊代
	No.4 人と人がつながる保健活動 ～歯科保健指導・性教育・生活習慣改善の取り組みから～	さいたま市立常盤北小学校 養護教諭 中澤 悦子
	No.5 より良い学校薬剤師活動の推進について ～行政と連携した北九州市薬剤師会の働きかけ～	社団法人北九州市薬剤師会 理事 寺本 美香

## 第61回指定都市学校保健協議会 記念講演

### 「諦めなければ夢は叶う ー陸上競技人生20年の軌跡ー」

#### 朝原宣治氏の講演について

専務理事 井本 雅 美

平成22年5月16日に大阪で開催された第61回指定都市学校保健協議会において、朝原宣治氏による記念講演が行われました。

朝原氏はご存知の通り、2008年北京オリンピック男子4×100mリレーの胴メダリストであり、現在大阪ガス株式会社人事部に在籍されております。高校時代から陸上競技に本格的に取り組まれ、2008年に36歳で競技生活を引退されるまで、オリンピックには4回連続出場、世界陸上には6回出場されています。

小学生の時には遊びの中から体の様々な動きを学んだことが役に立った、中学生時代はハンドボールで全国大会に出場できたという達成感や、「水を飲む」という（誤った）指導もあったが、辛かった経験が「肥やし」となった、高校生ではそれまでの反動で「緩い部活動」を選択した結果、自発的に学びたいという気持ちが生まれてきた、などとご自身

の小中高時代を振り返られました。

結果、オリンピックでメダルを獲得されたわけですが、会社、家族、友人の協力体制があり、環境に恵まれたことが良かった、そして競技においては個人の力や努力に加え、お互いの信頼関係が大切である、などと話されました。

世界の大会で結果を出すには、環境はもちろん、遺伝的に備わっているその競技に適した肉体が強く関係してくると思いますが、それに加えて本人の努力や諦めない気持ち、そして人間関係が大切であると感じました。

朝原氏は2010年4月にスポーツクラブ『NOBY TRACK and FIELD CLUB』を旗揚げされ、ジュニアやユース世代の選手育成を主眼とした陸上競技教室などを開講されており、キャリアを社会に生かすチャレンジを続けておられます。

---

---

## 南支部会開催の報告

南支部長 清 水 忠 雄

6月26日(土)新都ホテルの「四川」にて、奥村新会長、長村前会長をお迎えして行いました。

まず会長より、MRワクチン第Ⅲ期の接種率が大勢の学校医の献身的な協力により97.5%と非常に高い率であった事が報告されました。

その後、支援学校、育成学級や校医と産業医の件、又地区医師会長経験者が出席者の中に数人おられた事もあり特定健診が話題になりました。それにしても長村前会長の博識にはいつもながら驚かされます。ワインを熟知されている山下先生おすすめのワイン

を楽しみながら、最後にサーバリックスやプレベナー、アクトヒブなども話題にのぼり、和やかな会を終了しました。

出席者は、山本 昭郎（久世中）、岡本 行功（九条中）、関 透（八条中）、檜垣 正（祥栄小）、秦 敬和（山王小）、小山 秀樹（陶化小）、山下 琢（九条塔南小）、清水 忠雄（九条弘道小）でした（敬称略）。

## 産業医研修のお知らせ

京都市学校医会では京都府医師会と共催で、本年度も産業医研修を行う予定です。研修は学校医の職務に関するもので、給食設備の職場巡視の見学を予定しています。施設の性格上参加は学校医を原則とし、いずれも1会場3名程度で、時間は約1時間、実地研修1単位が取得できます。複数会場の参加も可能ですが先着順を原則といたしますので、ご希望の先生方は学校医会事務局（TEL.256-0351、FAX.241-3568）までご連絡ください。

会場	地区	日程	時間
衣笠小	北	9月1日(水)	2:30~3:30
稲荷小	伏見	9月6日(月)	2:30~3:30

なお、本事業も11年を経過し対象校もほとんど無くなり、本年は2校となりました。ご理解いただき、多くの参加を期待いたします。

### 京都府医師会指定学校医制度 単位取得研修会・講演会のお知らせ

#### てんかん医学連続講座

開催日 平成22年7月25日(日) 午前10時~午後4時  
会場 ひと・まち交流館京都  
(下京区木屋町通上ノ口上る梅湊町83-1 (河原町通五条下東側) TEL 354-8712)  
講演 「てんかんの基礎知識と現場での対応について」  
田中北梅田クリニック 院長 田中 順子氏  
「てんかんの外科治療進歩について」  
京都大学医学部附属病院脳神経外科 准教授 三國 信啓氏  
参加費 一般:2,000円

#### 第49回 京滋臨床アレルギー懇話会

開催日 平成22年7月31日(土) 午後3時~5時20分  
会場 からすま京都ホテル 「瑞雲の間」(下京区烏丸通四条下 371-0111)  
特別講演 「中耳炎に関する最近の話題」  
自治医科大学附属さいたま医療センター耳鼻咽喉科 教授 飯野ゆき子氏  
「小児アトピー性皮膚炎:環境と生体との相互作用」  
千葉大学大学院医学研究院小児科病態学 教授 河野 陽一氏

#### 平成22年度民営・市営保育所(園)嘱託医研修会

開催日 平成22年8月5日(木) 午後3時~4時30分  
会場 京都府医師会館1F 101号室 (中京区壬生東高田町1-9 TEL 312-3671)  
演題 「改訂版保育所・幼稚園で役立つアレルギー対応マニュアルの解説  
~特にアトピー性皮膚炎、食物アレルギーについて」(仮題)  
乳幼児保健委員会委員 松井 美萌氏、伊藤 節子氏  
「保育所(園)・幼稚園の就学時健診での視力検査等について」(仮題)  
京都府医師会理事 柏井真理子氏

## 第 3 回 常任理事会

平成22年7月3日  
於 事務局

出席者 奥村会長、林・竹内副会長、井本専務理事、  
福持・大久保・杉本各常任理事、長村監事、  
星谷・鈴木耳鼻咽喉科専門医会理事

### ・会長挨拶

### <報告事項>

1. 第27回京都府歯科保健文化賞表彰式  
6/6 子どもと母親各5名が受彰
2. 人づくり21世紀委員会平成22年度第1回幹事会  
6/7
3. 精神衛生研究会 6/10 10名出席
4. 京都市立学校結核対策委員会準備委員会  
6/10 大久保出席
5. 京都市学校保健会理事会・評議員会 6/15
6. 京都市学校保健会新旧会長歓送迎会 6/15  
長村会長退任
7. こどもの心とからだ教育講演会 6/19  
奥村・杉本参加
8. 三師会 6/19
9. 大文字駅伝運営企画委員会 6/23
10. ワンポイント相談 6/24 1件(中3)  
本人、母親、養護教員の3者が出席
11. 南支部会 6/26 於：新都ホテル  
奥村・長村出席
12. 色覚相談 6/22、6/29
13. 第1回給食事業安全衛生委員会 6/28  
竹内出席
14. その他

### <協議事項>

1. 京都市学校保健会・学校安全功労者表彰推薦に  
ついて  
内科より2名、耳鼻科、眼科より各1名推薦
2. 平成22年度学校保健及び学校安全表彰(文部科  
学大臣表彰)推薦について
3. 第69回日本公衆衛生学会について
4. その他

### <関連学会・各種協議>

1. 校園長部会との懇談会 7/3
2. 色覚相談 7/6、7/13、7/20、7/27
3. 府医学校医部会幹事会 7/8
4. 精神衛生研究会 7/8
5. 市教委との懇談会 7/10
6. 腎臓相談 7/13
7. 第32回近畿学校保健連絡協議会 7/15
8. 府医学校保健委員会 7/21 奥村出席
9. ワンポイント相談 7/22
10. 養護教育研究会との懇談会 7/24
11. 「給食調理員・栄養教諭・学校栄養職員」のメ  
ンタルヘルス講演会 7/28
12. 府医学校保健委員会、運動器学校検診モデル事  
業小委員会 7/29 奥村出席
13. 京都市小学生水泳記録会 7/29  
於：アクアアリーナ 長村出席
14. 第4回常任理事会 8/7 2:00 pm～

### 【お詫び】

会員名簿(平成22年6月発行)掲載の武田薬品工業(株)広告に間違いがございました。申し訳ございません。旧版が印刷されてしまいましたので、新版を同封させていただきます。同封広告への差し替えをお願い申し上げます。お手数をお掛けいたしますが、何卒宜しくお願い申し上げます。